

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372001418		
法人名	有限会社 たけのこ		
事業所名	グループホーム たけのこ(85番地)		
所在地	愛知県豊橋市駒形町字退松85番地		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年 1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372001418&amp;SCD=320&amp;PCD=23">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372001418&amp;SCD=320&amp;PCD=23</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも普通に暮せるノーマライゼーションを基本とします」を理念として運営をしています。これまで分かっていたことが分らなくなったり、これまで出来ていたことができなくなったりすることで思うように暮せなくなっていきます。一人一人の有する能力に応じて、外出ができるように、買い物ができるように、好みの食事を作ったり食べられるように、好みの衣類が着られるように、行方不明にならないように、排泄で困らないように支援をし、最後まで安心して暮せることを目指しています。十分に栄養や水分が摂れなくなった場合には、家族とよく話し合っているだけの支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの使命や役割を十分に理解し、ノーマライゼーションの理念に下打ちされた質の高いケアが実践されている。このホームの方針は、職員だけでなく、利用者や家族にまで浸透しており、さらには地域をも巻き込みそうな勢いを感じられた。  
運営推進会議は多彩なメンバーを集めて開催されており、評価員2名も会議の末席に加わった。ホームからの詳細な報告事項の後で自由な意見交換が行われ、会議メンバーからは「事業運営の透明性」に優れていることが称えられた。「利用者の寒冷対策」で話が弾み、1時間の制限時間では足りないほど、密度の高い話し合いが行われた。  
利用者を中心に、ホーム、家族、地域、関係者の一体感が感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果(自己評価参加10名)		項目		取り組みの成果(自己評価参加10名)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	2名	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1名	1. ほぼ全ての家族と
		6名	2. 利用者の2/3くらいが			3名	2. 家族の2/3くらいと
		2名	3. 利用者の1/3くらいが			6名	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	8名	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0名	1. ほぼ毎日のように
		1名	2. 数日に1回程度ある			2名	2. 数日に1回程度
			3. たまにある			7名	3. たまに
		1名	4. ほとんどない			1名	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	3名	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1名	1. 大いに増えている
		4名	2. 利用者の2/3くらいが			7名	2. 少しずつ増えている
		3名	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	2名	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	2名	1. ほぼ全ての職員が
		6名	2. 利用者の2/3くらいが			6名	2. 職員の2/3くらいが
		2名	3. 利用者の1/3くらいが			2名	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0名	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	2名	1. ほぼ全ての利用者が
		0名	2. 利用者の2/3くらいが			6名	2. 利用者の2/3くらいが
		9名	3. 利用者の1/3くらいが			2名	3. 利用者の1/3くらいが
		1名	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	2名	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	2名	1. ほぼ全ての家族等が
		8名	2. 利用者の2/3くらいが			6名	2. 家族等の2/3くらいが
		0名	3. 利用者の1/3くらいが			2名	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	4名	1. ほぼ全ての利用者が				
		6名	2. 利用者の2/3くらいが				
		0名	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

たけのこ85番地自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標		
I. 理念に基づく運営			自己評価	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(A・D・F・H・I) 法人の理念があり、朝の申し送り時に全員で唱和している。(A) 現在の入居者の現状と理念が少しかけ離れていると思う。(C) 介護度の低下により理念の実現が難しくなっている。現在実践につなげていけることはつなげていきたいと思う。今日も一日スマイリー。(E) ノーマライゼーション・普通の暮らしについてスタッフが共有できているかどうかかわからない。(I) 理念を皆で共有しよところはのびし、これはというところは改める。(J) 今回の自己評価で、心身が重度になり、「身辺自立ができなくなっているとき、移動の自立が出来なくなっているとき、自分で選び決める能力がなくなっているとき、自分のペースで生活することが難しくなったとき」普通の暮らしではなくなくなるという理解をしてしまうということが分かった。理念を共有化するため職員全員が自己評価を行っている(A~I)は参加職員。	(J) 普通の暮らしを職員と再確認をする。(C) 基本理念一つ一つの意味を理解したい。	(J) 職員の普通の暮らしを記述してもらおう。職員で意見を出し合う。勉強会を行う。(C) 今ある理念の意味を全員で共有化したい。理解することで実践へつなげていける。(E) 業務日誌を用いて皆の考え方を把握する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(A・E) 近所のスーパーマーケットへの買い物。日々の散歩。保育園での敬老会。地区市民館での作品展。530運動に入居者も参加している。(B) 地域の方との接触する機会が少なく、連携がとりづらい。(C) 利用者が外に出て地域と触れ合お互いが理解しあえればよいが、全ての利用者が外に出るのは困難である。(B) 盆踊りには地域の方も参加している。(E) ホームの行事への一般の方の参加は少ない。作品展へ地域の方が350人見学に来た(I) 近隣の方も次第に向こうから挨拶をしてくれることが多くなった。買い物先でも声をかけてくれる事が増えた。	(B) 地域の方に色々知ってもらおう。地域の人と触れ合う。(I) 明るい人間関係をつくる。	(B) 保育園や学校機関に見学に来てもらう。もっと外に出るよう努める。(I) こちらから声かけあいさつをする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(B) 作品展や盆踊りなど地域に参加しています。(C) ホームの行事には参加しているが、実際に利用者に関わることがあまりない。運営推進会議に参加していただきたい。(I) 行事の時写真やビデオを流し地域の理解を求めている。(J) 回覧板はホームまわってくる。溝さらいなど全ての町内の行事に管理者が地元の住人として参加している。陶芸教室を週1回開き作品を地域の作品展に出展することから作品展が始まった。学生や地域のボランティアを受入れている。今年度から始まる豊橋市徘徊SOSネットワークの連絡網に参加することにした。	(I) 外部の人に目を向けてもらうようにする。	(I) 散歩、買い物など外に出る機会を増やす。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(A・I) 毎月の状況をまとめ報告している。事務所、リーダーが参加。他職員は内容を知らないのではと思う。意見・アドバイスを活かしているかは分からない。(C) 2ヶ月に1回行っている。各ユニットの活動状況報告。写真を使って報告している。意見やアドバイスをいただき、ユニットで伝えているが、実際に活かしているか分からない。(E) 家族の参加は多い、利用者の参加は少ない。	(C) 運営推進会議を職員が知る	(C) スタッフが交代で参加、議事録を回覧、閲覧できるようにする。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(J) 介護保険更新時に市役所を訪問し、情報交換をしている。運営推進会議議事録は毎回長寿医療課に提出している。新規事業所の立ち上げの相談をしている。市の代行として地域包括支援センターが運営推進会議に参加している。職員にはこの動きは良く知られていない。	(J) 事務所の活動を職員が知る。	(J) 申し送りで周知する。	

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況と現状における問題点、課題	目標	
			目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(A・C・D・I) 日中は玄関の施錠はしていない。「禁止の対象となる具体的な行為」は分からない。(B・H) 夜は門を閉めています、日中は開放され散歩をする方がいる。(C) 身体拘束はしていない。スタッフの人数が少ないときに、安全のため玄関からでられないように施錠するときもある。(E) 近所の作物をとってしまう時季には門を閉めて対応をしている。敷地内を散歩をする方が外へ出て行かないように門を閉めることがある。(G) 理念に「身体拘束・抑制はしない」に基づき介護を行っている(F) 時と場合によりできていないことがある。(I) 開放的である。(J) 転落防止のためベッド柵をした場合には、家族との間で拘束の同意書と経過観察記録を残している。	(B) 身体拘束をしない。(I) 必要以外は施錠をしない。(K) 身体拘束について理解をする。	(B) 拘束をしない反面一人一人が安全に暮らせる環境が必要である。(I) 職員が声をかけあい利用者の居場所を確認する。(K) 教育および勉強。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(A・F・I) 高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会はなかった。(I) Aアザや傷があった場合、事務所へ報告・記録表へ記入及び家族の方が来訪されたときに報告している。(B) 虐待がないようスタッフが互いに目を配り、体を大事にしています。(C) 入浴時や着替え時に体のアザや傷を確認。記録に残している。介助している中で、アザをつくったり、皮むけをつくるので十分気をつける。(D・F) 虐待防止の意識はある。(DF) 昨年意識調査を行った。(E) 言葉遣いで子ども扱いしている場面が見られる。(F) 時々スタッフからの暴言が見られる。	(J) 職員の不適切な対応には早期に対応し悪化を防ぐ。(B) 安全安心で居られるよう努める。	(J) 不適切な対応をみたらすぐに事務所へ報告する。(B) 入浴のときアザや怪我がないかチェックする。(C・I) 無理な一人介助はしない。虐待行為をお互いに確認。(E) 定期的な意識調査と勉強会の実施。(I) 職員間で声をかけあい目配りをする。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(A・C・D・F) 成年後見制度の勉強会を行った。参加していない職員いる。(B) 来訪された家人には情報提供をしている。(C・E) 成年後見制度を利用している入居者は知っている。新人スタッフは制度について知らないと思う。(I) よく分からない。		(E) 年1回勉強会を行う。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(C) 事前にホームの見学をして、様子を見てもらったり、何か相談があれば事務所で対応している。(D) 十分な時間で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(A) 利用者意見と言える方はケア会議に参加し、要望等、聞いている。ケア会議がなかなか出来ない。運営推進会議に参加している家族もいる。毎月家族の方が記入した用紙が届き見ているが、それについて職員全員で話し合う機会がない。(B) 家人からの要望はできるだけ実践している(C) 毎月記録物を送るときに返信用紙をいれ家族の意見要望を聞けるようにしている。家族からの返信はみている。(J) 家族と連絡が取れない1名。遠方1名。遠い血縁2名。14名の家族とは最低でも毎月顔を合わせて話をする事ができる(F) 申し送り時代表者から職員へ伝えられている。必要があればユニット会議で話し合っている。		(I) 家族と話す機会を多く持ち意見を聞く。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	(A) 日々業務ノートに記入。年1回の面談→やらずに終わってしまった職員もいた。最近は一斉会議をやっていない、ユニット会議等で出た案件がうまく伝わっていないこともある。(B) 時々会議がある(C・F・I) 業務ノートの記入。そこに問題点があげられれば、朝夕の申し送りで事務所から呼びかけがある。又皆で話し合ったりする。ユニット会議録は事務所に提出、事務所から意見をもらったり現場の状況を分かってもらう。		

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(A)当日の突発的な人の異動が全職員へ伝わっていないこともあり、人員不足の時もある。(C)入居者の介護度の低下により、体力・精神力とともに大変だと感じることも多々ある。其中でも楽しみをみつけみんなと協力してやっていきたい。正社員は思うように休憩がとれない。時間を決めていないが現状(E)8月末にスタッフに対して面接を行い個々の意見を聞いている。(F)採用されたとき給与・労働時間について説明を受けている。タイムカードは管理されている。(I)休み希望要望を聞いていただき感謝しています。ユニットミーティングを勤務時間内に行ってほしい。	(J)出退社時間の管理。徹底。労働法の遵守。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(A・C)リスクマネジメント研究班にて、社外発表をさせて頂いた。(運営推進会議でも発表した)(C)ホーム内で成年後見制度の勉強会(E)研修を行っている(F)職員一人一人に合わせて研修や講習を受けている(G・I)新人研修の内容が少ないように思われる。(J)自己評価を職員全員に取り組みせ、最低1項目は6ヶ月を目標とした改善計画をたててもらい、取り組んでもらうよう働きかけている。職員の退職、新人の入社により研究活動は一時休止、新人職員が落ち着いたら研究活動の再開を検討する。		(J)改善計画に取り組み6か月後に発表会を行う。11月→5月まで。研究班活動の再開。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(A・C)他グループのホームの方が来て、実習中に意見交換する機会がある。(F・I)同業者との交流はほとんどない。		(E)研修で交流する機会を持つ。交代で職員を出していく。I他施設を見学に行ってみたい。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(A)初期情報は事務所が把握している。入居開始されてからは、本人の話を聞きながら慣れていただくように配慮している。また、細かな言動を記録に残し、他職員と情報共有している。(BH)利用者と話し要望に耳を傾ける(CE)入居1週間は24時間シートを使って、行動、言葉、スタッフの対応、できることを細かく記入し本人のことを良く知るようにしている(C)人間関係向上に努めている(G)スタッフ全員のものになっていないことがある。(K)利用者の話を聞き、分からないことなど答える。	(B)よりよく利用者と接する。	(B)利用者の安心を考える。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(A)事務所が行っている。職員へ情報提供しているが申し送りに参加していない職員へは周知徹底できていない。(BE)家人と話、要望に耳を傾ける(C)家人来訪時に意見を聞いたり其の意見をユニット内で共有できるよう其の都度伝えたり、ユニットミーティングで話し合ったり、事務所と相談することもある(D)話しやすい雰囲気にも努めている(G)スタッフ全員のものになっていないことがある(I)家族の思いが届いているか(K)事務所及びリーダーの判断に任せている。	(B)よりよく家人と接する。	(B)家人が安心できるよう努める。(I)家族の同意が得られれば、家族アンケートを年1回行ってみる。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(B)サービスの向上で必要があれば家人に頼んでいる(CE)24時間記録を基に本人、家族、スタッフ、事務所等今必要としていることを話し合い、見極め支援している。(G)伝わっていないことがある(K)リーダーに話を聞き対応している。	(B)的確に必要なことを見極める	(B)サービスの向上を目指す。	

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況と現状における問題点、課題	目標	
			目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(AE)一緒に家事(掃除、選択、料理)をし、一緒に食事をとっている。買い物や散歩をしている。料理に関しては教えていただく事も多い。出来る方が限られている。(B)利用者とともに歩みよりよい関係を目指す(C)なるべく其の時間を一緒に過ごすようにしている。スタッフとのコミュニケーションが上手く取れなくなってもトイレやお風呂で「ありがとう、一緒に行けてよかった」と伝えている。余裕がないとできない。自然にできることが目標(D)努力している(E)本人の意思を尊重している。(FI)何か行うときには本人の意思を聞きそれに基づき行っている。会話を増やすようにこころがけている(G)寝たきりの方には話しかけ笑顔やうなづきをいただき元気をもらっている(K)チーム全体で取り組んでいる(K)	(B)さらに人間関係を向上させるG出勤したときまず一人一人に声をかけ笑顔をもらう。I出来る事は一緒にする。	(B)利用者とともに生活を助け合う。(C)いつまでも残っている本人の感情は大事にして一緒に其の時間を共有したい。(G)一人一人にあいさつして会話を交わす。I出来そうなことを一緒にする。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(A・F・I・K)来訪時に近況を伝えている。気になることがあれば聞くようにしている。(B・H)家族本人が絆で結ばれるよう努力します。(C・I)行事の時には参加してもらい、一緒に過ごしていただいている。(D)来訪時には近況を伝えている。家族と本人の意見が全く異なるとのように対応していか分からないときもある常に念頭に置いている。(E)家族と外出をする方が、4名。衣替えや必要なものを持ってくる。(F)一緒に過ごす時間を大切にしている。(G)話をよく聞くようにこころがけている。	I要望を出してもらう。	(I)職員が話しかけやすい雰囲気づくりをする。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(A)日常の会話の中に馴染みの方の名前(家族)を出したり、写真があれば一緒に見ているしている。(B)本人にとって大切な人を尊重し、関係が途切れないようにしている。(C)原則誰でも自由に会いに来られるようになっている(本人の権利を侵害する可能性ある方について家人より申し入れがあれば制限をする場合もある)(AC E)なじみの場所へはなかなか行けていない。(F)本人が通っていたお寺の行事に参加するなど継続に努めている。馴染みの場所を知らない事が多い(G)できていないことが見受けられる。(K)会話で思い出せるようにしている。		家人や友人など大切な人とコミュニケーションを図る。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(ACFG)利用者同士でどうしても折が合わない方がいる。配席を配慮したり、間に入ったりしている。(BH)なるべく孤立しないよう心掛けます。(C)認知症の進行により言い合いになる場面も増えてきている。早めに対応できない場合もある。入居者が入居者の生活を支えている場面もある(D)明るく笑いのある関係を支援している(E)居室ベッドで過ごす時間が長い方が1名いる。エステや散歩で離床するが、他の利用者に関わる機会が少ない。(F)85番地はリビングに集められていることが多く孤立は少ない。(I)チーム内で常に連絡をし合っている(K)	(B)皆と一緒に過ごす。(I)共同生活を楽しむ。	(B)一人一人に声をかけなおかつ全体に目を配る。I.職員が一人一人に目を向け声かけをする。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(J)事務所が中心となり行っている。死亡退去した場合には次第に遠のいていく。(C)退所後もお見舞いに行ったり。亡くなられた方の葬儀に参列したり、家族と話したりしている(I)利用を終了すると少しずつ遠のいてしまう。		(I)行事等へ家族の参加を呼びかける。

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(AC)日々の会話の中で出た内容に、記録に残している。(B)一日の生活の中で本人が希望することは検討していく(C)本人の希望や意向の把握が困難な場合は、ユニットの中でこれはどうなのかという事を話し合っている(E)努力している。(F)ケア会議を開き本人の要望や暮らし方などについて話し合うが、ここ2ヶ月ほど行っていない。(G)本人に添えていないことが多い(H)一人一人の体力に合わせ暮らし方に努める(I)利用者の発する言葉や態度を心にとめ共有できるようにしている(K)事務所に確認、連絡をしている。	(B)本の希望にできるだけそう。(F)利用者の要望や暮らし方の把握。	(B)本人から聞く。(F)ケア会議を行う。月～金短時間でも会議を開催する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(J)生活歴の情報は収集しているが、新しい職員には伝えられていない。(A)個々のファイルがあり見たことがある。ある程度は把握している。(B・G・I)過去の生活歴を少し把握(CE)ファイルで確認。家人から話を聞くこともある(FK)職員や利用者との会話でそれまでの生活ぶりを聞いているが詳しくは把握できていない(H)これまでの生活歴に考慮しながら接している。	(B)生活歴を考慮した生活を考えるために、これまで集められた情報を共有化していく。	(J)直近の生活記録に過去の情報をまとめて綴じる。(B・I)生活歴を参考にし生活に取り入れる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(ACE)現状維持に努め、気になることは、他職員にも確認している。また記録にも目を通してている。(B)一人一人の生活サイクルは把握している(C)事務所に伝え相談をする。心身状態を把握することに注意している。(F)介助を通して一人一人の力を確かめ、その力が維持できるよう努めている。接している時にいつもと変わったところがないか、注意している。(GI)あまりできていない(H)朝出勤時に顔を見る(K)朝礼や申し送り、職員の連絡等で現状把握している。(J)6ヶ月以上関わる事で現状の把握は全職員ができています。		(I)記録を見る。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(AC)ケア会議にユニットで話し合っているが、ケア会議が行われなくなっている。(BFH)月に1回ユニット会議に参加している(C)ユニット会議では問題点しか話し合えないので、全体的なことをしっかり話し合いたい。今の介護計画を見直し作りなおす必要もある。(EF)会議で家族からの意見が議題に上がることがある。家族への確認も行う。(G)現状に即した介護どのようなものが良いのか明確にならないことがある。(K)事務所やリーダーの連絡指示に従って取り組んでいる。	(J)会議を継続する。(B)サービスの向上。(C)みんなが分かり易いようにケアプランをつくる。	(J)決められた時間に会議が開かれるよう準備しておく。留守番を残して出来るだけ会議に参加をする。(B)話し合いによる検討。(C)ケア会議をきちんと行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(A・F)日々の様子は記録表へ記入している。また他者の記録にもしっかり目を通している。(B)毎日生活記録は書いている(C)記入漏れがまだまだ多い。評価ができていないので見直しに活かされていない。(D)記録や口頭で情報を共有している。(E)記録物が多い。(G)気づきや工夫が次の見直しにつながっていないことがある(H)記入漏れがないようにしている。(I)他の職員の記録にはあまり目を通してない(K)個別記録の偏りが発生している。	(B)何かあれば書いておく。(I)共有化。(K)全職員の記入をチェック	(J)記入もれをなくす。(B)過去の記録を見て現状より良いサービスを目指す。(I)共有化したい部分には線を引くなどして目を通したい。(K)記録表の一部変更。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(B)何かあれば事務所と相談(CE)本人家族の状況に応じて対応している。共用型でサービスでの受入れ時間を早朝から夜間まで時間延長をしている。夕食の提供。(G)取り組んでいるが介護力が追いついていかなないように思う。(H)柔軟に対応できるよう心掛けている。(K)新しいニーズに対してリーダー、事務所に提案し、取り組んでもらう。	(B)事務所と連携	(B)サービスの向上	

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標		
			自己評価	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(ACE)地域の作品展に出品。見学しに行った。毎週気功教室、うたの会、エステをやっていたりしている(B)安全な暮らしが出来るよう心掛けている(C)地域資源何があるだろうか(J)磯辺保育園の敬老会・本宮神社の餅投げ・地区市民館の作品展・ジャスコ伊勢屋での買い物ツアー・ガチャボンの足湯・高師緑地公園・塩釜神社・梅田川霊園・スシロー・ミニストップなどを活用(D)ドライブや公園等に出かけている(E)消防署から来て普通救命講習実施(G)あまりできていない。	(K)地域資源の把握	(J)自己評価で地域資源を列挙して理解を深める。大切なことは、ミニストップが近くにあり、その地の利を活かし活用する事。(K)リーダー、事務所で教育。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(A)各医療機関を決めて受診をしている。(BE)家族希望の病院は家族が連れて行く。他は協力医療機関に通院又は往診を受けている。(CI)往診を利用している利用者は状況に応じて往診回数を増やしたり、其の都度連絡を取っている。往診時に家人が来訪し医師と直接相談をできる(HK)身体の変化に気をつけ変わったことがあったらリーダーかオーナーに連絡し医療が受けられるようにしている。	(B)適切な医療	(B)本人や家人が納得するよう努める	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(AF)週1回、松岡HP往診。往診時に現状報告や相談をしている。(A)職員の入れ替わり等で、往診時に満足いく報告・相談が出来ていなかったため、事前に相談事項一覧表を書いておくようにした(6月～)(B)看護師が出勤をしたときには相談をしている(CF)非常勤の看護師に気になる所は相談をしている。気になる事は事務所を通し主治医に相談をしている(DK)看護職と気付きについて意見交換している(EF)往診時訪問看護師に助言を受けている(G)組織としてはあまりいかされていない(G)	(B)本人のサインを見逃さない	(B)常に全体に目を配る	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(J)主に事務所が行っている。毎日面会。家族が遠方の場合には洗濯物や必要な物品の支援も行っている。医師、看護師から情報を得るようにしている。以前とはことなり、症状が固定すると早期に退院をさせることが多い。(A)入院時の状況は職員へ情報共有化している。(B)経験が浅いのでよく分からない(CE)主治医から大きな病院を紹介してもらおうことができその後は事務所と家族で対応し、入院から退院までの間スタッフも面会に行ったり家族と話し合ったり情報交換しスタッフに伝えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(J)重度化した場合の事前指定書を交わし、口から食事や水分が摂取できなくなった場合にどうするかを確認している。最後をホームか病院か在宅かの希望もお確認をしている。何回も確認を繰り返している。(A)主に事務所。其の情報を全職員で情報共有して対応している。(CFI)ターミナルケアを行っており、家人と事務所が何度も話し合いを繰り返し行っている。話し合いの内容をきちんと把握できていない。(E)事務所と家族の間で競技している。内容はケア会議に活かしてケアを行っている(G)十分にできていない。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(AI)救急救命訓練をうけている(年1回)実践の場もなく、日々意識できていないので、実践力が身につけているが自信はない。(B)災害時の避難場所の確認。連絡網は出来ています(C)月日が経つと忘れてしまうので何度も繰り返し行うことが必要。実践力を身につけたい(E)マニュアルの作成は行った。(F)職員全員が理解していない。訓練は行えていない(K)常に医常時の対応ができるようリーダー等に教育・指示されている。	(B)事故を防ぐ。(C)実践力を身につけよう。(F)低血糖時や誤嚥、意識が無いときの対応の仕方を身につける。	(B)常に全体に目を配る。(C)リスクマネジメント研究班の作成したものを掲示する。定期的な訓練を行う(F)講習会を開く。研修へいく。	

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標		
			目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(A) 何度か避難訓練をやったが、当日勤務職員のみでの参加。その訓練結果がどうだったのか今後どうすべきか情報共有されていない。(B) 災害訓練は行っている(C) 津波を想定した訓練を1回行ったが全スタッフが体験できていない。どの順番で連れ出したら良いかスタッフが相談したい(FK) 夜間の避難方法は理解できていない(I) 夜間職員が少なく不安(I)	(B) 避難場所の確認。(F・K) 火災や地震の避難方法を職員全員が身につける。	(C・E・F・K) 避難訓練を定期的に行う。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(A) 徹底した敬語では話せていないが、尊重を意識し対応している。(B) 利用者の人格や過去を理解したうえで接している(C) 其のときの状況、場合によって使い分けているが、尊重する気持ちは忘れない。他の入居者の前で尿・便などの話は、食事中はしないが、以外の場面でも不快に思わないか(D) 注意している(E) 可能な限り同姓介助を意識している(J) プライバシーには配慮できている。言葉遣いや態度に敬意が表れていない(F) 常に話を聞く姿勢でいられるように意識している。(H) 相手の立場になって言葉をかけている(IK) 慣れすぎて言葉遣いが気になる職員がいる。	(B) プライバシーの尊重。(I) 対応方法を考える。	(J) 事実を見たらすぐに業務ノートなどで事務所へ連絡。(B) プライバシーの保護。(E) 反省会を行う。(I) 皆で注意しあう。(K) 上下関係無く言葉かけにこころがけ対応する(職員との会話にも注意する)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(AEK) なかなか思いや希望を表せる利用者が少ない。思いを伺うようにしている。(B) 本人の自己決定を尊重(C) 自己決定が出来ない方にも始めからスタッフが決めるのではなく一度本人に聞くようにしている。(D) 色々なチャンネルを使いコミュニケーションをとっている(F) 何処かへ行く、散歩に行くなど何か行動するときには本人の意思を確認するようにしている(H) 本人の思いをリーダーや皆で話合うようにしている(I) お世話になっているのにこれ以上言えないという人もいる。	(B) 本人の希望を尊重	(B) 本人と話希望を聞く。(I) ゆっくり話せる時間を持つ。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(A) G かな希望を言える利用者が少ない。介助する方も多くなってきているため時間がなく希望に添えないときもある。(B) 風呂の順番や本人のしたいことをこちらの都合にしていない(CI) 判断力のある方は自分のペースで生活できるようにしている。介護度が全体として落ちてきて一人一人への対応時間が長くなるため、スタッフ側の都合で日課を組み立ててしまう事が増えてきた(DK) 一日の大まかなスケジュールを伝えている(F) 心身の状況にあわせている(E) 希望があれば買い物など一緒に行くようにしている。	(B) 一人一人のペースの尊重	(B) 本人のペースに出来るだけあわせる。I 行事のない日や休日等もっと外出を増やしたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(A) 起床時に洗面整髪の声かけ。自分で出来ない方は、コットンアイで目を拭いている。着替え時に何点か服を用意して選んでもらっていたが選べる人が少なくなった。(B) 本人の希望により美容院や床屋へ行っている(C) 自分でおしゃれという方が少なくなってしまった。(E) 出来ている人、できていない人がいる(F) 整髪が出来る人には本人の行ってもらい、その日の気温などにより服を選び上着を着るなどして調節も行っている。(H) よく似合いますね。今日は素敵ですねと声をかけている(K) 自分で選べる人が少ない。ボタンがないもの、ほつれのあるものもある(I) 女性スタッフに聞いて衣服を決めている。	(B) 清潔感あふれる身だしなみ	(B) 常に綺麗にするようこころがける。(C) 其の方が好きだった口紅、スカーフをまくなどを続けて行きたい。外出時に化粧をしておしゃれをしていきたい。(I) どうしても前側から選び同じ物を出してしまわないよう、タンスの仲の入れ替えを行う。	

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況と現状における問題点、課題	目標	
			目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(AB)職員と利用者が一緒に準備、片付けをしているが、一部の利用者のみになってしまっている。昼・夕は一緒に食べているが、朝は早晚が一人で食事介助者が多いため一緒にたべていない。(CI)調理に参加できる方が減ってきている。出来そうな方には声をかけているが、同じ方ばかりに偏って負担になっていないか心配。(C)食事介助する方が増えているのでスタッフがゆっくり食事を摂れないこともある。(DH)一緒に食べる。味付け、片付けを手伝ってもらう(E)意思表示が出来る人がすくなくなってから偏らないようにあらかじめ作った献立のクジを引いてもらっている(F)一緒に準備し料理を教えてもらったり、昔の話を聞きながら行ったりしている(G)楽しんで行えるところまではできていない(K)感謝の言葉が少ないと思われる。	(K)利用者、職員等感謝の気持ちを持つ。	(B)食事中孤食がないよう気をつける(E)以前家人による献立を考えてもらい、家人も参加して調理をしたことがある。(K)常に声を出して感謝の気持ちを話す。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(AC)食事水分量は記録に残してある。食事中にお茶を残していたらゼリーを提供している。きざみ提供をする利用者もいる。おかゆ、エンシヨアを提供する利用者もいる。全職員で共有している。気になる方については、ユニット会議で話し合い。(BK)一人一人の状態や必要カロリー確保できるよう心掛けている(CEF)食事が低下したら本人の好きな物を提供したり、主治医と相談をしている。エンシユア利用4名。OS-1使用者3名。(D)食事制限のある方、紅茶、コーヒー好きは把握している。	(B)最適な食糧。(I)野菜を多くとる。	(B)一人一人にあった食事を提供。(C)同じものにならないよう、消化の良い食品や献立のメニューを増やしていく。(I)汁物等具を多くし30品目をお目指す。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(ABCFG)毎食後歯磨きを行っている。うがいが出来ない方については口腔ウェットティッシュで口腔ケアをしている。入れ歯は毎日ポリデントをしている。(C)歯科受診をしていない方も多し。一度見てもらいたい(E)自分で出来る方の声かけが不足している(K)食前にもうがいを実施。	(B)毎食後の口腔ケアをつける。(I)口の中に物を残さない。	(C)歯科受診を年1回行う。(E)声かけの実施。(I)食後にお茶・お茶ゼリーを徹底する。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(A)日中は2~3時間ごとにトイレ案内している。排泄の記録を残し、職員間で情報共有している。また肛門まわりが硬い場合にはマッサージをして排便を促している。(B)一人一人にあったトイレの仕方、パッド交換している。(C)尿量に合わせたパッドを使用している。尿意便意がない方が多い、もぞもぞしたりサインを見逃さないようにしたい。(E)排泄チェック表を活用し状況の把握に努めている(H)なるべくトイレに座る時間が増えるように心掛けている。(F)食後にトイレへ行き、排泄の支援をしている(I)尿はすでにパッドに出ている方が多い(K)トイレ回数を多くしているが、ばらつきがある。	(B)適切な時間にトイレ案内。(I)タイミングを上手に活かす。	(B)健全な排泄をしてもらうよう工夫する。(I)トイレ・チェックシートを皆で見直す。(パッド内の尿量を記入してみる)(K)職員同士の声かけ確認。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(AFH)毎食及びおやつ時に水分を取ってもらっている。飲めない場合にはゼリーを提供。時間があるときには室内散歩をしている。(A)下剤の調整。(B)下痢などを起こしたときにも工夫している(C)主事医と相談をして、下剤を調整している。(F)便秘が続く場合は肛門マッサージを行う(I)便秘で苦しんでいる人はいない。	(B)一人一人にあった食事	(C)便秘がないよう食事メニューを再度検討していく。(I)ヤクルトの提供は。

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標		
			目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	(ABEK)曜日、時間帯は決めていなくても入れる状態になっている。(A)85番地は、デイ利用者優先で入浴するため、2~3日入浴できない入居者もいる。(B)なるべく毎日入浴できるよう考えている。(C)自発的な入浴者は2名。毎日入浴している。全介助の方は一日おきを心掛けている。足浴を行っているが一台なので両ユニットあったらよいと思う(E)入浴を嫌がる方は入浴回数が少ない。(F)一人で入浴できる方には希望を聞いている。その他の方は職員の都合によることが多い。(I)日々の入浴タイミングは一定化している。(K)入浴しやすいよう温度や会話を大切にしている。		(B)前日に入っていないかったら次の日ははいるようにする。 (E)ケア会議で入浴を嫌がる方の声かけを検討する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(ACE)一人一人の居室があり、いつでも休める状況にある。ウトウトしている時や座位が保てなくなっている時は、布団は休んでいただいている。(B)体調を考え体を湯住めてもらっている。(C)寒すぎず、暑すぎないように室温や寝具の調節。スタッフが添い寝して安心してもらうようにしている。(D)自己決定を尊重している(F)シーツ交換や、布団干しは、利用者により回数のばらつきが大きい。(G)スタッフの都合で動いていることがある。(K)散歩、体操時の声出し、運動を支援している。	(B)気持ちよく休める。(F)全ての利用者が同じ頻度でシーツ交換、布団干しができる。	(B)居室の温度・湿度を調整 (F)チェック表の記入漏れが無いようにし、晴れた日は布団を干すようにする。積極的に声をかける。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(AE)一覧表を作り、おおよそ理解している。(A)新しい薬が処方され場合は、症状の変化気付きを記録している。以前の古い薬(期限切れ)を処分した(1月)(B)投薬時間、分量は理解している(CI)処方箋に目を通し一覧表をみているが全員の薬の副作用については把握できていない。(C)服薬後の変化は主治医に報告相談をしている。(D)服薬のタイミングをはかり声をかけている(F)錠剤で呑めない場合にはつぶしてゼリーに混ぜるなど工夫している。(K)リーダーの指示による使用。	(B)本人の変化を見逃さない	(B)薬使用後の変化を見届ける	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(AE)毎週月・火気功。水曜日は歌の会がある。エステが週1回あり楽しみにしている。日々買い物、調理、洗濯等、一緒に行うができる利用者が限られてくる。(B)料理や洗濯それぞれ得意とすることを分担し、時にドライブなど気分転換している。(C)要望がある方は生活に取り入れている。スタッフの人数やゆとりも関係している。(FG)業務に追われ支援できていない。(H)嗜好品等を選んでもらっている。(K)一日1回は笑っていただくよう支援している。	(F)利用者の気分転換を図る。(I)一人一人の楽しみを見つける。	(F)習字など出来るメニューを考えていく。(I)ゲーム、かみしばい等できるとよい。(J)何でも働きかけて見ると良い。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(A)外出は少なくなっている。一部の利用者に限られている。(BE)自ら外に散歩に行く人もいる。車椅子で施設内や周囲を回るなどしている(CG)介護度の低下により、外出の頻度は少なくなっている。出かけられる人も限られている。家人との外出。(F)希望があれば外出できるようにしている。(I)リビングでたいくつそう(居眠り)している人も多い。(K)計画を立てり一だ一、事務所に相談をして支援している。(J)職員の外出支援に対する意欲は高い。	(B・I)有する能力に合わせて全員に対し散歩できるようにする。	(B)定期的に出られるようにする。(C)近場でもいいので介護度の低下した人も喫茶店などに出かけたい。外気にあたれるようにしたい。(E)気候の良いときには外出の機会を増やす。(I)一日二人ぐらいは散歩にさそう。	

自己	外部	項目	自己評価			
			実践状況と現状における問題点、課題	目標		
			目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(A・F・H・I)1名自己管理し自由に買い物をしている。1名事務所預かりで家族が許容している金額内で自由に買い物ができる。他7名は重度化し金銭管理能力はなくなっている。(C)近くのコンビニにおやつを購入するとき、入居者自身にレジで支払いをしてもらうこともある。(E)レシート・領収書をもらい家人に報告している。	(K)お金が無くても楽しく過ごすことができる事を分かってもらう。(J)今有する能力に応じて支援をする。	(I) 100均一に行ってみる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(ACE)電話がかかってきたとき、取り次いでいる。手紙が来たときには読めない方には一緒に読んでいる。年賀状を家族宛に出すよう支援をしている。字が書けない場合には一緒に書いている。(B)それぞれの家人により異なるので気を付けています(C)荷物が届いたらお礼の電話をするように支援している(F)電話や手紙をできる能力がない人が多い(K)利用者の話を聞き家族に電話をしてもらったり実施している。	(J)住所と名前は書けるように維持したい。	(CE)入居者の良い写真を年賀状にして送りたい。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(A・E)夏・冬はエアコンで温度調節している。加湿器を使用している。季節感を感じられない。(B)照明、テレビ、風などに気を付けている。(C・E)トイレが汚れたままのときもある。リビングに花を飾りたいが、食べてしまう人がおり難しい。(F)外の光が強いときにはカーテンを閉めたり、寒い時は窓を閉めたりしている。(I)玄関にはいつも季節の花が飾れている。(K)朝の掃除、挨拶、洗面台の花などを行っている。		(C)気付いたときにトイレを掃除する意識を持つ。季節ごとの作品を飾る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(A・K)リビング、スタッフルーム、事務所、畳スペース自由に過ごせるようになっていく。TVも自由に見ることが出来る。相性の悪い利用者の配席に配慮している。(B)一人一人の生活空間、リビングで集まるなどがあります。(C・F)各所にソファが置いてあり、自由に過ごすことができる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(B)使い慣れたものを持ち込み使用している方も居る。(A・E・F)生活に必要なもの本人が使い慣れたものは居室にある。(C・I)入居時に居室のレイアウトを本人、家族、スタッフで相談しながらつくっている。本人の思い出の品や写真を飾ったりしている。(G)整理整頓が不十分である。(K)整理整頓を心掛けている。居室の掃除が不十分。(I)(K)職員が感じたときに事務所に提案、利用者が過ごし易いに工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(A・E・F・I)段差が少なく、手すりも多く設置されている。リビング内に歩行の妨げが無いように注意している。(B)自ら動ける人は洗濯や掃除などを手伝っている。(C)各居室には表札を設置している。表札を読んで確かめている入居者もいる。(G)工夫はされているが、本人がうまく利用できないこともある。(H)個人の体調を見て職員の介助が必要か判断している。(K)安全対策が実施されていない(確認もない)。	(B)安全の配慮。(K)職員、利用者災害「0」件	(B)ケガをさせないように注意する。(K)職員全員に連絡をし再発防止に努め実施する。	